

会議名 ニセコ町学校運営協議会推進委員会（平成28年度・第5回）

開催日 平成29年2月8日	会議時間	開会 午後3時00分 閉会 午後4時30分
会議場所 ニセコ町役場 第2庁舎 大会議室	記録者 ニセコ中学校事務職員 三坂 宜巳	
出席委員：渡邊委員、矢島委員、松本委員、井上委員、酒井委員、飯田委員、小中委員、 田邊委員、日野浦委員、菊地委員、加藤委員 教委：淵野係長、笹森主事、三坂 欠席：橋元委員、本田委員、山野委員、高瀬委員		

会議内容

1. 開会

2. 教育長あいさつ

コミュニティ・スクール（CS）導入事業も残り2カ月となった。先月、中学校で行なったイングリッシュ・トライアルでは、地域の方の力を借りて実施することができた。CSもこうした地域の協力を得ながら、進めていきたい。

3. 委員長あいさつ

昨年12月に参加した東京でのCSフォーラムでは、導入後、成熟したCSをこの先どのように持続させていくかというテーマであった。ニセコの導入はこれからだが、導入後も長く継続させていくための知恵を委員から拝借したい。

4. 議事

(1) フォーラム参加・視察研修報告 **資料1**

○地域とともにある学校づくり推進フォーラム（北海道会場）

北海道会場のテーマは「つながり」。北広島市西部地区ほか先進事例の実践発表が行われた。コーディネーターからは、CSは単に学校を支援する仕組みではなく、学校・家庭・地域のつながりを作ったり、ともに子どもたちを育てていったりする仕組みであるとの助言があった。

○地域とともにある学校づくり推進フォーラム（東京会場）

午前のプレフォーラムでは、全国各地の参加者と熟議を行った。午後の実践発表・対談では「CSの持続性」をテーマに繰り広げられた。地域と学校の間を「網戸ばりの窓」に例え、風通しの良い声が聞こえる状態にすべきとの意見があった。

○秋津コミュニティ（千葉県習志野市）

秋津小学校では、学校の空き教室を地域に開放し、地域の方々が生涯学習活動や福祉の拠点として運営している。学校を拠点に、子縁（子どもを持つ人も持たない人も、子どもに関する活動を通じたつながり）でつながる地域づくりを進めている。この結果、ふるさと意識の醸成や自己肯定感の高い子どもを育むといった効果が出ている。

(2) ニセコスタイルのコミュニティ・スクール

平成27年度からのCS導入等促進事業の協議内容のまとめ(案)、学校運営協議会設置規則(案)について説明し、協議を行った。

○地域と学校をつなぐコーディネーターの配置について、1人に対応するのは難しいのではないか。

→教育委員会事務局にニセコスタイルの教育を担当するコーディネート人材を配置する予定。この人材と学校に配置するCSコーディネーターとが連携して運営を行う体制とすることで、予算要望や道教委への加配要望をしている。

○「熟議」という用語が使われているが、さらに議論を深めなければ本当の熟議と言えないのではないか。

→これまで、事務局から提案したことをただ承認するのではなく、みんなで考えながら進めてくることが出来た点で、熟議と考えているが、表現方法は検討する。

○事務局に教育委員会職員は加わらないのか？

→事務局のサポートを行う。

○規則案で委員長が協議会を召集することとしているが、委員も発議できるようにしてはどうか？また、大人数では動きが遅くなることもあるので、役員会などを設置し、スピーディに動けるようにしてはどうか？

→役員会や部会は協議会が設置されてから必要に応じて設けることとしたい。この場では協議会の骨格までをつくり、始まってから少しずつ肉付けをしていく。

○事務局の位置付け、組織体制など、事務局からたたき台を出して欲しい。

→学校運営協議会は一定の権限を持つ組織である。教育委員会事務局が協議会の有り様や進め方をすべて決めるのではなく、委員全員で作り上げていく組織としたい。

(3) 平成29年度コミュニティ・スクールの取組み

資料により、平成29年度の取組み(案)について説明。引き続き、文部科学省のコミュニティ・スクール導入等促進事業(運営の充実)を活用しながら事業を進める。

○学校運営協議会の設置

○推進体制

○具体的な取組み

- ・学校運営協議会の開催
- ・教職員・保護者・地域住民の理解向上
- ・視察研修・全国フォーラムへの参加
- ・地域向け情報発信

(4) その他

井上委員より、大人も子どもも楽しく学びながら生涯学習を進める体制(=地域の楽校)構想について、提案があった(別紙資料のとおり)。今後のコミュニティ・スクール運営の参考とすることを確認。

5. 閉会